

平成29年度山形県公私立高等学校協議会の概要

1 日時

平成29年12月21日（木） 14:00～15:00

2 場所

山形県庁 701会議室

3 出席者

委員6名

佐藤俊一、石原弘廸、九里廣志、大山由起子、小山清人、堀田理恵

※敬称略

4 報告

(1) 平成29年度公私立高等学校の入学状況について

- ① 平成29年度公立高等学校の入学状況、私立高等学校の入学状況について説明

5 協議

(1) 公私立高等学校の収容定員について

- ① 県立高校再編整備基本計画について説明（事務局）
- ② 私立高等学校の収容定員の考え方について発言（私学代表委員）

《意見の概要》

- 生徒数が減少していく中、公立高校が最低基準に合わせた募集定員を定め、それを私立高校がカバーするように、公立高校と私立高校が車の両輪として協力し合っていきたい。
- 定員割れをしている学校が多ければ多いほど、学業に向かう子供達の気持ちが低下していくと言われている。できるだけ子供達が学ぶ環境を望ましい形にしていくよう公私立が協力して検討していかなければならない。

(2) 高大接続改革に伴う学習・指導方法の改善について

- ① 議題提案の趣旨について説明（事務局）
- ② 公私立の教員研修の取組事例について説明（事務局・私学代表委員）

《意見の概要》

- 各私立高校では、高大接続改革の研修会を設けるなど、子供達により良い授業を展開できるよう取り組んでいるところだが、まだ大学入試のはっきりしたスタイルが癒えていない部分もあり、各学校で模索しているという実情がある。
- 今回の高大接続改革は過渡期にあり、今後、社会の大きな変化で大学入試の方法も変わっていくものと考える。
- 県を挙げての探究型学習であるので、県教育センターで実施する探究型学習の講座に私立高校も招くなど、公私立が一体となり授業改善に取り組んでいくことが必要。
- 先日参加した「やまがた教員養成シンポジウム」で、高校生の深い学びの様子を見ることができた。1つの学校だけでは指導法改善は進まないが、このような学びの様子を多くの先生が見たり、お互いの授業を見合ったりする取組みを広めていきたい。
- 公立高校再編整備基本計画や教育制度の変更点などの情報を積極的に保護者に伝えてほしい。